

「ありがとう」は言葉に出して伝えたい

東戸塚にある「社会保険労務士事務所ジャスティス」の所長である山崎氏。学生時代から、「誰かの役に立つことに喜びを感じていた」といい、「社労士は、まさに私の天職！」と笑顔で話してくれました。社労士、事務所の代表として心がけていること、働きやすい環境を作る上で、大事にしていることなどをお聞きました。

社会保険労務士事務所
ジャスティス
特定社会保険労務士
山崎 香織氏



「もし相手の立場なら？」を考える大切さ

あらゆる手続き業務のほか、人事や労務のコンサルティング的な要素も含む社労士の仕事。ベースにあるのは、経営者、働く人とそのご家族のお役に立つという部分です。自分の学生時代を振り返ると「楽しい」や「うれしい」といった感情を抱くのは、いつも「誰かの役に立ったとき」でした。そういう意味でも、自然とこの仕事に就いていた感じです。

そんな私が、社労士になった当初より心がけていることがあります。それは「相手の立場で物事を見る」ということです。たとえば、クライアント先の社長から、従業員についての相談を受けた際、「私が従業員だったら、どう感じるか？」と両者（経営者・従業員）の立場で考えるようにしています。そうすることで、一気に視野が広がってゆくのです。

また、先方に「私が御社で働いていたら、〇〇のようだと思います」と率直に伝えることで、新たな“気付き”が生まれ、問題解決につながるケースもありました。これらはコミュニケーションの基本かもしれませんが、日頃から意識をしないと、なかなか実践できないもの。そして、自社の中でも大いに役立つことだと思っています。

感謝の気持ちは必ず言葉で

事務所内では私が代表という立場ですが、ここでも「従業員ならどう思う？」という視点を大事にしています。その一つとして実践しているのが、“感謝の気持ちを言葉で伝える”ということ。全体会議の場などでは、定期的に「会社が存続しているのは、皆さんが頑張っているおかげです」というように、感謝の気持ちを伝えています。

経営者の方と話をすると、「従業員には感謝しているけど、あえていわなくても……」という声を聞くこともあります。でも、気持ちは言葉に出さなければ伝わりません。上司やリーダーからの言葉は、大きな力となり、モチベーションアップにもつながるはず！ 感謝の気持ちだけでなく、改善点やアドバイスもしっかり言葉にすることで、従業員との信頼関係がより強くなると感じています。

“お互いさま”を意識できる環境に

「いかに働きやすい環境を作るか？」は、事務所を設立した当初より、力を入れて取り組んでいるものの一つです。子育てや介護のほか、家庭の問題を抱える社員も在籍する中、メンバー同士が協力する体制作りは欠かせないと思いました。

定期的に行っている個別面談では、現状についてのヒアリングを実施し、事務所内で解決できることはクリアにしてゆきます。その後、状況に合わせてメンバーと共有し、勤務時間や在宅ワークの日数、業務量の調整などを行いながら、仕事がスムーズに進む体制を作ります。

私たちの事務所では、クライアント先に対して 1 社 2 名のペア業務が基本です。これにより、業務面はもちろん、精神的な部分でも負担が軽減されると感じます。たとえ、今は自分がフォローしている状況でも、いつ逆の立場になるか分かりません。常に“お互いさま”の意識を持ちながら、今後もメンバーと一緒に楽しく働ける環境を構築したいと思っています。（取材・文／小林 真由美）



山崎氏の事務所 HP はコチラから ↑